

通信が五十号になりました。一〇〇号に向けて頑張ります！  
今後ともどうぞよろしくお願ひします。

早いもので、一九九二年にこの青山で創業して二十三年になります。九二年から九六年まで「bhf通信」を一七号迄出しました。二〇〇一年からこの「UTOニットだより」のスタイルにして、とうとう五十号になりました。毎回、何を書こうかと思ひ悩みながら、二十年以上もよく続いたものだと自分ながら思います。

寒さの底の時期ですが、まだまだ堅い芽も少し膨らんだ気がします。冬来たりなば春遠からしです。



【引越しが決定】

十年近くもここにお世話になってきましたが、とうとう引越しすることになりました。三月初めの予定です。

場所は同じ骨董通りで、此処よりちょっとだけ表参道の駅に近くなります。

港区南青山5-4-35 青山たつむら607

青山からは離れなくて、現在の場所より表参道の駅に近く、今より低階という条件で、三年近く探して、やっと決まりました。皆様のお越しをお待ちしています！

【心るさと納税】

お陰様で、岩手県北上市の特産品としての「Oのカシミア」は好評でした。引き続き今年も北上市から「人命頂けることになりました。」

【日本製が評価された】

ここ数年、日本製評価のニーズをよく見るようになり、訪日旅行者の声をはじめ、日本のモノ作りの品質の高さを押されるようにマスコミも日本製を評価するニーズを取り上げるようになったようです。車や家電は先人たちの努力で世界が良さを認めていました。ファッション業界にもとうとうその波がきたようです。

ファッション業界は完全なヨーロッパ崇拜でした。特に我々団塊の世代はパリモードをはじめとするヨー

ロッパファッションへの憧れが強く、ヨーロッパのものならなんでもハイセンスだと思ひ込んできました。モノ作りもヨーロッパを勉強し、追い付け追い越せと努力してきました。

そして半世紀。気が付くとモノ作りはとくに追いついて、もによつて日本人の勤勉さと器用さで追い越していったのです。でも洗礼を穿けました者にとってそれを認めることは夢が破れることで、「やっぱりデザインが違ふとか、色が違ふ」とか云々といううちに、ヨーロッパをはじめとする外国の人達が日本のモノ作りを評価してくれています。評価された日本人が驚いている現状でしょう。

欧米ブランドが無いとグレードが下がりが無くなること云々だった百貨店もジャパンメイドを特集する時代になりました。

世界のスーパーブランドは、途上国の高級品売り場にもあり、見慣れたショップなのです。とうとうは世界中をまとめた高級ブランドはかなりの大量生産なんです。それに比べジャパンメイドの優れものはまだ日本のローカルです。モノ作りには比べ売り方が下手といわれる日本。せうかくの優れたモノ作りをどうやって世界に羽ばたかせるか真価が問われる時です。



【青山・表参道界限】

渋谷金王八幡宮

渋谷吉祥の神社は池波剣客の舞台

平安時代の末期。此処には渋谷城という城郭があったそうです。渋谷は渋谷川の谷間という意味の、地名から来たものかと思ひていましたが、ここ一帯は渋谷氏が納めていたそう。渋谷氏が由来という説もあり、詳しくは分からないようです。

渋谷氏は相模一帯を支配し、薩摩の島津氏にもつながる名家だそうですが、平安から鎌倉時代にかけて源頼朝が実権を握るまでの過程で源氏側の武将として大いに活躍したようです。

神社の社殿は渋谷区指定の文化財になっていますが、この社殿は徳川三代將軍家光の教育係だった青山忠俊が奉納したそうです。

青山三丁目あたりから、渋谷駅をはじめ、松濤美術館も含む広い一帯がこの金王八幡の氏子です。道玄坂のお祭りのときなどはこの金王神社の神職の方がお祝いをされています。金王神社の神輿が出ます。

随分前になりますが、この通信の青山・表参道界限のコラム、「青山の善光寺」でも書きました。大好きな池波正太郎の『剣客商売・第十巻の春の嵐』にこの渋谷金王八幡が出てきます。物語はこの渋谷金王八幡と青山の表参道にある善光寺を舞台に展開します。

主人公の秋山親子が追う暗殺者がこの金王神社にたまたび現れます。真犯人は次々と殺人者を犯しますが、最後に襲われた被害者が死に際に「こん・こん」と言っただけで切れます。その「こん・こん」が、「金王八幡で見かけた奴に襲われた」ということを云って死んだと推量して、この金王八幡で何日も何日も見張りをつけています。

ある日、この金王八幡で見張りをした後に、近くの青山善光寺にお参りして帰ろうとして、ついに青山善光寺の境内で真犯人を見つけたという、とっても面白いストーリーです。

池波正太郎の小説では、信心深い江戸時代の人々が、神社やお寺で息抜きをして、娯楽を楽しむ庶民の様子が生き生きと描かれています。現在、神社は渋谷警察の斜め後ろの森で、渋谷の外れにひっそりという感じですが、江戸時代はもっと大きな敷地の神社だったようです。神社やお寺の位置は昔とあまり変わらないように、江戸時代の絵地図にも現在の位置にちゃんと金王八幡が載っています。この神社の位置を基に想像すると現在の変化がよくわかります。



カシミア100% ベーシックタートルネック

1112-1144 ¥48,600 税込



カシミアセーターの基本は、このタートルのフルオーバーでしょう。軽くて暖かいカシミアの良さを最高に発揮するのがタートルです。タートル一枚で下着一枚分というぐらいの暖かさです。袖と裾の編み出しが袋網のスッキリタイプ。肌の敏感な人でもカシミアならばこそチクチクしないのが何よりでしょう。

カシミア100% カスケード カーデガン

1112-2109 ¥62,600 税込



カスケードの襟が天使シリーズと同じふんわりタイプです。袖口をロールにして、大人の可愛さを演出しました。もう少し暖かくなったら、さっと羽織って遊興とお出かけください！

カシミア100% ネックウォーマー

LUAS-2116 ¥7,992 税込



手編み風のガーター編みが楽しさ感たっぷり。使い込み、洗濯すればするほど柔らかさとふんわり感が増します。一度使ったら、手放せない冬の必須アイテムです。

カシミアとニットの話 \* (五十)

【ふるさと納税は三方得】



もなりません。まさに、納税者、行政、生産者の三方得の納税方法なんです。こんな、ウイン・ウイン・ウインと云うのはめったに素晴らしいアイデアだと思います。

昨年、十一月からUTOのカシミア製品もふるさと納税の景品にして頂き、全国のおのくの人たちに利用して頂きました。ふるさと納税の景品は農水産品が多い中で、高級なカシミア製品は珍しいと思います。

一万円コースには、指無しハンドウォーマー  
三万円コースには、マフラー  
五万円コースには、天使のストール  
十万円以上には、セミアオーダーのセーター

すべてが最高級のカシミア100%で一枚一枚丁寧に作られたジャパンメイドで、とても好評をいただいています。

特に十万円以上のコースは納税の依頼をいただいた後で、レディス・メンズのセーターを選んでいただき、当社から連絡させていただき、「丸首かVネック、MかLのサイズ、色を16色の中からご自分で選んでいただいております。職人達が、貴方の為にお作りするものです。

これこそ、北上のUTOでしかできないジャパンメイドの御馳走だと思っています。

引き続き今年も特産品として北上市にご用命して頂けることになりましたので、今年はいよいよデザインやサイズを広げたいと思っています。

昨年は、沢山のご用命に嬉しい悲鳴でした。大変喜んでいますが、願わくば秋になる前の春夏期カシミア製造閑散期にご用命頂けるととても助かります。

なせ、UTOのみならず貴方の為に心を込めてお作りしますから。きつと、寒くなるのが楽しみになるでしょう。

開かずの踏切から12年



通勤で毎日利用する武蔵小金井駅。この通信の二〇〇三年の秋号に「開かずの踏切」で書いたことがありますが、この武蔵小金井は、駅のすぐ横を小金井街道という大通りが通っています。当時はこの小金井街道の踏切が大問題になっていました。中央線は超過密ダイヤで、朝の通勤時間帯は一時間に上下三十本ずつの列車が走っています。二分一本の列車が来るので踏切の遮断機はほとんど開きません。当時この踏切が開いている時間が六十分に六十秒ということですから、お話になりません。

たまたま踏切が開いたら、それまで待っていた人たちが、車、自転車が一斉にわたり始めますので大騒ぎの鬼ごっこ状態。そんな状態ですぐに次の列車がきて、横断の途中で混雑が鳴り遮断機が下り始めます。急いで渡ろうとして浅い混雑。ベビーカーや足の不自由な人、お年寄りなどは命がけの踏切です。これが遊びではなく現実の踏切ですから危険極まりありません。

そんな危険な踏切を解消しようと、高架工事が始まったのが、二〇〇三年九月でした。以来約七年、やっと高架の工事が終了したあの危険な踏切はなくなり、それに伴い駅もすっかり新しくなりました。

日本の駅前は昔から商業の一等地。その一等地を求めて商店街が発展してきました。武蔵小金井にも二三分に漏れず昔からの商店街がありました。

高架が完成して、駅前広場が整理されて商業ビルが建ちましたが、これはJRのビルです。そして大資本のイトーヨーカドーが店出して来て賑わっています。その後、高架の下にJRの商店街が開発されていともうすぐオープンです。

魔の踏切が解消され、駅前広場も整備されて住民にとって便利になりました。

住民にとっては良いことですが、既存の商店街の人たちは大変だと思えます。一等地だった駅前商店街に特等地のJR商店街が競争に躍り出てくるのですから。

あの狂乱の間に踏切解消の高架工事ははじまった時にどけだけの人が商店街の危機を予想したのでしょうか。競争の厳しい世の中だと思えますが、いつの時代も生き残るには変化が必要。

昔はよかったです。済まされないう、駅前がいつまでも繁盛するとは限らない時代で、今は勝ち組の大型店でもずっと安泰ではないのです。小社も含めて、それこそお店の業態を買い替えるぐらいの変化と対応を求められているのでしよう。世の中は厳しい！

世界のホテルを旅する(五十) 元 旅行屋のお勧め ラゴス・ナイジェリア フェテラルパレス ホテル

フェテラルパレス ホテルに泊まったのは、今から四十年も前で、この通信が五十号まで続いたら書こうと思っていた、人生で一番印象深いホテルです。

当時二十五歳、初めての 아프리카。単身でナイジェリアのラゴスに着いたのは夜の九時過ぎでした。到着したばかりの空港の暗がりではいきなり数人に囲まれてホールドアップに会い、現金を盗られ、ほうほうの叫びで逃げた。チップホテルは、バンナムで予約したにも関わらず、エアコンが壊れ、トイレにはウソコが浮いていて、鍵もかからない最悪のホテルでした。

当時ナイジェリアは内戦の後で、ピアラ難民で大混雑し、その上に海底油田が発見されて、世界中から一攫千金を狙う人たちが群がり国内の治安が極度に悪い時期でした。

チップアップホテルで最悪の夜を明かして、鉄筋コンクリート造りのフェテラルパレス ホテルに着き、満員と断られながら粘りに粘って部屋が取れたときは、要塞の中に避難できたような安堵感を持ったことが残ります。

渡航の目的は、十年に一回ブラツクアフリカで開催されるブラツクアートフェスティバルのナイジェリア大会に日本からの参加の道を作ることでした。



交渉はうまくいって参加が出来たようになつたのですが翌日にクーデターが起こり、戒厳令が出てラゴスの街は凍りついたような状況になりました。一刻も早く国外に脱出しないと危険という状況で、ホテル内は騒然。家族連れも多く、欧米向けのフライトはすべて満席状態。様子が変わらず、泣き出す人もいてロビイは極度の緊張状態でした。

私もヨーロッパに脱出するつもりでしたが、急遽南に脱出することになりました。幸いにも二時間後のコンゴの首都キンシャサ経由でケニアのナイロビ行きが一席取れるというのでタクシーに飛び乗りなんとか間に合いました。ラゴスを離陸した時の嬉しさ今でも忘れません。

一方ラゴスでは、クーデター発生前に私が日本大使館を訪ねていたので、私を保護する為に探してくれていたとアフリカにある日本のエアラインと公館に私を探そうと配がなされてました。

ケニアのナイロビに着いた私に「宇土さんですかね？」と、声をかけてくれた人がいました。その人が「沈まぬ国の太陽」の主人公のモデルになった小倉さんで、日本航空の小倉さんも外務省からの連絡で私を探していたのです。今思い出しても疲れる若き日の想いで深いホテルです。